

# 今後継続的に（寄宿舍指導員を）採用していきたい 寄宿舍署名追加分提出 計8655筆

**香川教育**

発行所  
高松市田村町1033-3  
TEL(087)867-4797  
FAX(087)867-6446  
香川県教職員組合  
定価1部50円 1月100円  
組合員の購読料は組  
合費に含む

**香教組ホームページ**  
http://www.niji.or.jp/home/kakyoso/homepage

**香教組「署名・カンパ」にご協力ください**

**成績主義賃金**  
香教組は11月9日、「2013年度当初予算について」県教委と交渉を行いました。この交渉の冒頭、香教組中尾委員長は、来年度県独自の給与カットについて、「ご理解願いたい」と回答していることに対し、どういう意味か「質問しました。県教委は、「具体的には決まっていらない。できるかぎりカットしないよう働きかけていく」と答えました。

**香教組**  
告には、「常に実施状況や結果の検証を行うとともに、必要に応じて見直しを行うなど、客観的、かつ、公平・公正な運用が行われるようさらに努めることが必要」とある。県教委は検証を行っているのか。

**香教組**  
校長から意見を聞いている。  
**香教組**  
検証というのは、片一方の意見だけではなく、評価される方の意見も聞かないといけないのではないかと、香教組が昨年12月に教職員から取ったアンケートでは、9割を超える人が、「やる気が出ない」「やめてほしい」と答えている。

何回も言っているが、納得がいかないとき、不満を言うシステムがない。  
**香教組**  
では、説明を行うことになっていく。その際に疑問を話すことになっている。不服申し立てについても校長が説明を行っているはずである。



要求する香教組執行部

**香教組**  
評価が開示されていないのが、不服を申し立てようがない。評価は開示されていない。  
**香教組**  
特に考えていない。校長より勤務状況に応じた評価になっているはずだ。良好でない人には、手渡しし理由を説明しているはずだ。上位区分については、特に説明はしていない。

**香教組**  
下位区分についてのガイドラインや具体的な事例について別途申し入れたい。  
**県独自の少人数学級**  
文科省は少人数学級を推進し、財務省

**香教組**  
文科省は少人数学級を推進し、財務省

はストップをかけようとしている。どうなるのか。県独自ですすめてもらいたい。  
**香教組**  
国の予算編制と県独自の予算編成を見て、行っていききたい。

**香教組**  
子どもたちの成長を考えた、保護者の声を聞いて少人数学級を行って欲しい。

**香教組**  
内容で気になる点がある。部活動完全休養日について、県教委はどれだけ把握しているのか。地域人材等を部活動指導者として派遣するのは、かえって負担になるのではないかと、学習状況調査の年1回の悉皆調査こそなくしてほしい。セクハラ対策等の状況調査が年1回が隔年になっている。これは毎年しないといけないのではないかと。パワハラ調査もしっかりやってほしい。

**ハラスメント対策**  
教職員一人一人にハラスメント啓発資料が届いているのか。  
**香教組**  
校長会等で配布した。各教員に配るよううにしたい。

**香教組**  
その一文だけをとりあげないで合わせて読んで欲しい。  
**香教組**  
問題があるから指導しているのだから、問題があるのは当たり前。指導の仕方を変えるべきだ。今後改定すべきところは改定して欲しい。特に問題があると意識はない。

**寄宿舍指導員採用**  
採用試験の実施はありがたいが、5名退職者がいるのになぜ2名しか採用しないのか。  
**香教組**  
来年度は2名の採用だが、今後継続的に採用していきたいと思っている。

**お元気ですか**  
来年度は2名の採用だが、今後継続的に採用していきたいと思っている。特別支援学校指導員は47名しかいないのに、法律上では48名となっている。1名は流用しているのか。  
**香教組**  
47名を48名の法定通りにはしていないが、必ずしも法定通りの人数にしなければならぬというわけではない。これはどの職種にも言えることである。農経には流用していない。農経は別枠である。各学校に適正な人数を配置しているという認識をしている。

**香教組**  
盲、聾学校の舎生数減だけを見ているのではないかと。中部のマンモスなど知的養護の寄宿舍の状態をもっと見学に来て欲しい。



回答する県教委幹部

ハラスメントを受ける立場の人間が持つていないと意味がない。  
部下に問題がある場合、パワハラにはならないと書かれていた。

その一文だけをとりあげないで合わせて読んで欲しい。  
問題があるから指導しているのだから、問題があるのは当たり前。指導の仕方を変えるべきだ。今後改定すべきところは改定して欲しい。特に問題があると意識はない。

採用試験の実施はありがたいが、5名退職者がいるのになぜ2名しか採用しないのか。  
来年度は2名の採用だが、今後継続的に採用していきたいと思っている。

来年度は2名の採用だが、今後継続的に採用していきたいと思っている。特別支援学校指導員は47名しかいないのに、法律上では48名となっている。1名は流用しているのか。  
47名を48名の法定通りにはしていないが、必ずしも法定通りの人数にしなければならぬというわけではない。これはどの職種にも言えることである。農経には流用していない。農経は別枠である。各学校に適正な人数を配置しているという認識をしている。

盲、聾学校の舎生数減だけを見ているのではないかと。中部のマンモスなど知的養護の寄宿舍の状態をもっと見学に来て欲しい。

盲、聾学校の舎生数減だけを見ているのではないかと。中部のマンモスなど知的養護の寄宿舍の状態をもっと見学に来て欲しい。

**小黑板**  
「大人が元気でなければ子どもは元気になれない」という記事をどこかの新聞で見かけた。逆に子どもから元気をもらうこともいっぱいある。学校っていいな。先生と子どもが互いに元気のやりとりをしてと思うが、学校が原因で病気になる教職員が増えてきている。ここ10年間の教職員の病気休職者数と、そのうち精神疾患による休職者数(文科省)のグラフを見ると、10年前と比べて休職者数は1.7倍に増え8660人、うち精神疾患は2倍以上になり、5407人にもなっている。新勤評が始まり、勤勉手当の成

来年度は2名の採用だが、今後継続的に採用していきたいと思っている。特別支援学校指導員は47名しかいないのに、法律上では48名となっている。1名は流用しているのか。  
47名を48名の法定通りにはしていないが、必ずしも法定通りの人数にしなければならぬというわけではない。これはどの職種にも言えることである。農経には流用していない。農経は別枠である。各学校に適正な人数を配置しているという認識をしている。

盲、聾学校の舎生数減だけを見ているのではないかと。中部のマンモスなど知的養護の寄宿舍の状態をもっと見学に来て欲しい。

盲、聾学校の舎生数減だけを見ているのではないかと。中部のマンモスなど知的養護の寄宿舍の状態をもっと見学に来て欲しい。

盲、聾学校の舎生数減だけを見ているのではないかと。中部のマンモスなど知的養護の寄宿舍の状態をもっと見学に来て欲しい。

# 第7回香川県教育研究集会開催

# 笑顔あふれる学校づくり

## 堤未果さん講演「貧困大国アメリカにみる日本の近未来」

### どの子にもゆきどよいた教育を

10月28日(日)、香教組・香川高教組・香川私教連・香大教育学部教組共催の「第7回香川県教育研究集会」が香川大学で開催されました。

午前中は5つの分科会でレポートの発表をもとに討議が行われ、午後からは「貧困大国アメリカにみる日本の近未来」を演題に堤未果さんの講演が行われました。

### 分科会

### 困った子は

岩田先生のレポート

問題行動を起こしているのは、そうさせている何か理由があるはずと、事実を重ね、対話しながら、クラスの友達からも話を聞きながら、行動を読み解くことが大切と熱く話していました。問題を解決しながら、子どもたちや親とつながっていく報告でした。

### 原子力・エネルギー教育について考える

櫛橋先生のレポート

原発推進のために、文科省や電力業界などが勧めてきた出前授業や放射線読本などの原子力教育が、日々、福島周辺の被害が明らかになる中でどう変わってきたかを報告しました。

### F先生の支援を通して見えてきた香川県のポスター決定制度の誤り

入倉先生のレポート

勤勉手当において下位ランクに認定されたF先生。

市教委、県教委に苦情を申請するたびに双方の主張に食い違いが見られました。「勤務実績・指導状況報告書」が開示されていないことが大きな問題と指摘しました。

### 寄宿舎教育の充実・発展をめぐる運動について

寄宿舎教育の充実と発展を求める会のレポート

寄宿舎指導員が退職しても正規には採用せず、非正規で対応し続けてきた県教委。採用試験再開を求めてとりくんできたことを報告しました。

### 堤未果さんの講演

今年度の記念講演の講師として招いた堤未果氏は、2001年、ニューヨークの証券会社で勤務していた際、3・11同時多発テロに遭遇。その後の米国内の異常な状況が、堤氏をジャーナリストへの転身に駆り立てました。米国を中心に活動し、市民から政財界に至るまで幅広く取材活動を展開。著書や講演な

どを通じて米国の格差社会の現状などを克明に紹介し、今、日本社会が向かおうとする未来に警鐘を鳴らしています。

今回の講演では、教育を中心に、米国での格差社会の現状が紹介され、財界が政府と結託し、教育を食い物にして莫大な利潤を上げ、一方で若者を貧困に陥れ、兵役へと追い込んでいく手法が明解に語られました。そして、米国財界が、着々と日本の教育にも触手を伸ばそうとしている状況も示されました。堤氏は、社会を権力者の思うがままとさせないためには、市民・国民がしっかりと政治に関心をもち、自ら行動することがいかに重要であるかを強く語りました。

参加者からは、これからの取り組みに気合いを入れようという感想や、これからどうしたらいいんだらうという感想など、様々な反応が寄せられました。

今回の講演はかなりショッキングな内容でしたが、私たちは今回の講演から得られた示唆をしっかりと共有し、今後の運動に効果的に生かさなければなりません。

### 参加者の感想

敏に生きていきたいです。そして、騙されない力を小さいけれど、未来をつくるいのちたちに伝えていきたいです。

日本では報道されないアメリカの真実の姿を教えてくださいました。ぞっとする情報の数々でした。演題にもあるように日本の近未来なのですから今日聞いているよかったです。目にするのはいい。政治との関わりも教えていただきました。著書を購入して読みたいと思います。

小さな種まき、あきらめずにやり続けなければと思った。真実と希望がとけられるように！マスコミ、企業と金に惑う心が私も含めたくさんの人にある（いや、あると信じさせられている）ことに、考えを固定してしまわないで、それ以外の夢や希望が叶っていくためのビジョン、システムを構築し、実現化していけるように、もう少し鋭

「教育や学校の先生は宝物。日本はまだ間に合う。いつしよにがんばりましょう」という最後の言葉に励まされました。何が真実かをしっかりと見極める眼を持ちたいと思った。



講演する堤さん

## 県独自カット9年目も継続 カット率 0.2%に緩和

香川県教委総務課は、11月16日、香教組等に2013年度給与カットの提案をしました。9年連続となる県独自カットが行われます。カット率は0.5%から0.2%に緩和されましたが（ただし、2級2102以下はカット終了）、本来なら県独自カットそのものが許されるものではありません。県独自カット廃止に向け、声をあげていきましょう。

毎月の給与については、給料表の改定はなし。校長のみ、支給額が一定率（1.5%）で減額されます。休職者給与、現給補償額についても同様としています。

期末・勤勉手当の年間支給月数については改定はありません。校長のみ、管理職手当、勤勉手当、へき地手当（準ずる手当含む）、地域手当についても給料月額の場合に準じて所要の措置を講じます。